

始



考古圖集 第九集解説

○越前國坂井郡大石村大字井向發掘銅鐸に現れたる船、上代に於ける船は、その遺物往々に發見せらる。本圖版のもの如き亦其一たり。而して銅鐸に於ては定むべからざるもの多きも、今本銅鐸を本邦鑄造の一と仮定し、この船を當時の我國に於ける船の一型式とする時は、恐らく本邦最古の船の一型式となすべきか、本圖の船に關しては、已に西村眞次氏の高説人類學雜誌三十二ノ五に載せらるゝあり。西村氏は之を南方型式のものとなすべく、船側に見ゆる櫂様のものは、南洋諸島の船に見るが如き一種の裝置にして、船脚を速かならしむるものなりとせり。從來の之を擧げ見るものと共に、興味ある假説と見るべし。

○攝津國武庫郡打出村親王寺所藏銅鐸（梅原末治氏寄贈）流水紋小判型鈕の鐸にして總高一尺四寸八分五厘（内鈕高四寸五厘）胴の底長徑八寸、短徑五寸五分、同上部の長徑五寸短徑三寸七分あり。文様は磨滅せるどころあり明瞭をかくも、これを構成する分子は流水紋の外に鋸齒紋・羽狀紋・連續渦紋の三者を見る。

寺傳に依れば今より凡そ二百年前、同寺の北五六町なる阿保親王御墓の環溝修理の際發見せられしものと云ひ、なほ伴出の遺物として大形の神獸鏡（三角縁）二面内行花紋鏡一面及び石帶の鈿五個を傳ふ。鏡は何れも日本製なるが如く、古墳出土遺物に見るところと同一型式に屬するを以て、伴存の事實に就いては疑を容るべきも、亦注意に値す（梅原末治氏による）。

○滋賀縣東淺井郡湯田村字八島發見鬼瓦 未開人文様に拜物思想（*Worship*）を表現せるもの多きは言を須むす。本圖版に示せるもの亦この種のものを見るべし。瓦は白鳳元年薨去せし中臣金連の墓と稱せらるゝものを發掘して發見せしと傳ふるもの、その傳は直ちに之を信すべからざるも、その年代は之と相去ること遠からざるものなるべく、型式の珍なるを見る。高七寸二分・巾七寸六分。

○磬 青銅製にして長五寸四分、蓮華座は雲形の上にのり、雙孔雀相對立せり。銘に「奉納」といふ。裏面も亦圖様を全じうす、鎌倉時代のものなるべし。

○朝鮮全羅南道羅州郡潘南面新村里第九墳（谷井濟一氏撮影寄贈）先きに頭部を示せる甕棺（乙棺）の足部に當る部分を寫せり。正面に見ゆるものは杵を左側より示せるもの、ミイラの如く卷きたる麻布の杵の上に殘存せるを見る。

（谷井濟一氏は地名等について正誤表を寄せられたり、今本解説に黒点を打てるものは、それによつて訂正せるものなり）。

○支那發見百獸壺 本銅器は所謂再版物なるも、原型は恐らく漢代にあるべし。總高八寸三分五厘、最廣六寸八分五厘、六の帶文様を繞らせり。今上帶より之を見るに、第一帶は一種の未開人文様、第二帶は狩獵文様にして、壯漢立つて左手戈を以て怪獸を刺し、右手に小刀をあげたり。第三帶は蛇文様なるべく、第五帶亦然り。第四帶は水牛の如き巨獸に對

(1)

考古圖集 第九編解説

○越前國坂井郡大石村大字井向發掘銅鐸に現れたる船、上代に於ける船は、その遺物往々に發見せらる。本圖版のもの如き亦其一たり。而して銅鐸に於ては定むべからざるもの多きも、今本銅鐸を本邦鑄造の一と仮定し、この船を當時の我國に於ける船の一型式とする時は、恐らく本邦最古の船の一型式となすべきか、本圖の船に關しては、已に西村眞次氏の高説人類學雜誌三十二ノ五に載せらるゝあり。西村氏は之を南方型式のものとなすべく、船側に見ゆる櫂様のものは、南洋諸島の船に見るが如き一種の裝置にして、船脚を速かならしむるものなりとせり。從來の之を擧げ見るものと共に、興味ある假説と見るべし。

○畿津國武庫郡打出村親王寺所藏銅鐸（権原末治氏寄贈）流水紋小判型鐸の鐸にして總高一尺四寸八分五厘（内鈕高四寸五厘）胴の底長徑八寸、短徑五寸五分、同上部の長徑五寸短徑三寸七分あり。文様は磨滅せるどころあり明瞭をかくも、これを構成する分子は流水紋の外に鋸齒紋、羽狀紋、連續渦紋の三者を見る。

寺傳に依れば今より凡そ二百年前、同寺の北五六町なる阿保親王御墓の墳溝修理の際發見せられしものと云ひ、なほ伴出の遺物として大形の神獸鏡（三角縁）二面内行花紋鏡一面及び石帯の跨五個を傳ふ。鏡は何れも日本製なるが如く、古墳出土遺物に見るところと同一型式に屬するを以て、伴存の事實に就いては疑を容るべきも、亦注意に値す（権原末治氏による）。

○滋賀縣東淺井郡湯田村字八島發見鬼瓦 未開人文様に拜物思想（Totipotam）を表現せるもの多きは言を須むず。本圖版に示せるもの亦この種のものを見るべし。瓦は白鳳元年薨去せし中臣金連の墓と稱せらるゝものを發掘して發見せしと傳ふるもの、その傳は直ちに之を信すべからざるも、その年代は之と相去ること遠からざるものなるべく、型式の珍なるを見る。高七寸二分・巾七寸六分。

○磬 青銅製にして長五寸四分、蓮華座は雲形の上にのり、雙孔雀相對立せり。銘に「奉納」といふ。裏面も亦圖様を全じうす、鎌倉時代のものなるべし。

○朝鮮全羅南道羅州郡潘南面新村里第九墳（谷井濟一氏撮影寄贈）先きに頭部を示せる甕棺（乙棺）の足部に當る部分を寫せり。正面に見ゆるものは沓を左側より示せるもの、ミイラの如く卷きたる麻布の沓の上に殘存せるを見る。

（谷井濟一氏は地名等について正誤表を寄せられたり、今本解説に黒点を打てるものは、それによつて訂正せるものなり）。

(1) ○支那發見百獸壺 本銅器は所謂再版物なるも、原型は恐らく漢代にあるべし。總高八寸三分五厘、最廣六寸八分五厘、六の帶文様を繞らせり。今上帶より之を見るに、第一帶は一種の未開人文様、第二帶は狩獵文様にして、壯漢立つて左手戈を以て怪獸を刺し、右手に小刀をあげたり。第三帶は蛇文様なるべく、第五帶亦然り。第四帶は水牛の如き巨獸に對

せる一人の丈夫は、已に二本の鉞を投げ、手に小刀を握れり。第六帯は巨鳥の走るを寫し、下に双魚を描けり。把鉞は饗餐文の上に着く。

蓋は印籠蓋にして、その中央に巴文を置き、これを繞らして四區に分劃せる環帯には、樹木を挟みて雙女立てり。

○支那太原縣天龍山石窟本尊菩薩像（關野貞氏攝影）北齊の別都晉陽は今の太原縣に當る。縣西約四十里の所天龍山あり、「太原縣志」にこの山麓に聖壽寺あり、北齊皇建元年創建、内に石室二十四窟ありと記す。

關野博士先きに此の地に遊んで十四の石窟を發見して之を學界に傳わたり。（建築雜誌三八四号西遊雜信）本圖版はその第十一窟の本尊たる菩薩像を寫せるもの、優雅にして勁健、初唐の逸品たるを見る。

○支那發掘土偶 工學博士關野貞氏の支那より將來せしもの、一たり。桂甲の一種を裝へるもの、唐代武裝研究の一資料となすべし。高さ七寸七分。

○支那和卓發掘壁畫殘片 支那西域地方の發掘が東洋考古學研究に貢獻せしことの多きは言を要せざるべし。ニコラエフ(A. v. Leontiev)氏が明治三十七年プロシヤ王室より派遣せられたる第一回吐蕃(Turfan)探險隊を率ゐて東トキスタン地方の發掘を試み、多くの遺物をドイツ本國に齎し販つてその研究を蒐め、CHOTCHOと題して之を公刊せるが如きその著しきもの、一なるべし。本圖版はその所載のものを轉載せるもの、解説亦氏の說に據りたり。

唐代に於いては西域地方にキリスト教(景教)の信せられしは人の知るどころ、本圖版は和卓(Qua-Chodschu)に於ける一キリスト教寺院の壁畫を寫せしもの、圖版上部の中央、褐色に描けるは馬の前脚なるべし。その左に立てる異様の男子は、墨を以て線書きをなし、綠色の衣服は長く垂れて黒履の上に及び、其の上に寛かなる赤色の上衣を着たり。左手に下げたるは香爐の一種なるべく、香煙ゆるやかにあがる。而して右手に捧げたるは恐らく香水鉢ならん。この人物に對して立てる二人は男子にして、右端の者は女子なるべく、共に葉莖を手にしたり。その衣服は向つて左の褐色右の暗褐色なるを認め得べく、上に帶を繞らさず。軽く肩にせる上衣は膝上にまで垂れたり。その色左は暗綠色右は褐色なるも、裏地は共に赤色なるが如し。冠り物は左の褐色頭巾様なるを認め得べく、右は一種の帽子なるべし。右端に立てる女子は、唐風を明かに示せるもの、綠色の衣と裳を着け、褐色の領巾を肩にせり。

この圖様恐らく禮拜の一部を寫せるものなるべく、唐代に於けるキリスト教に關する遺物の一たり。巾二尺二寸餘、堅二尺一寸。

○和卓發見裂殘片 ルコック氏の“CHOTCHO”より轉載せり、平絹の一種なるべく、供養せる貴女とその侍童を描けり。その容貌を見るに、恐らく支那種か。敷物の上に坐せる貴女は、その服裝前に述べたるものと似て、紫色の衣と紅き裳を着け。褐色の領巾を肩より垂れたり。衣は盤領の一種なるが如く、胸を廣く開きたるを見る、貴女の後に立てるものを、ルコック氏は侍女とせるも、服裝より見るに或は侍童なるが如く思はる、紅色の盤領の衣を腰上にて帶を以て締め、その裾を闊腋にしたるは注意すべし。本圖如亦唐代のものたり。

部一ノ鐸銅掘發村石大前越



第九集

鐸 銅

(藏寺王親村出打郡庫武津橋)



近江湯田村大字八島發見鬼瓦

(市部一氏藏)



第九集

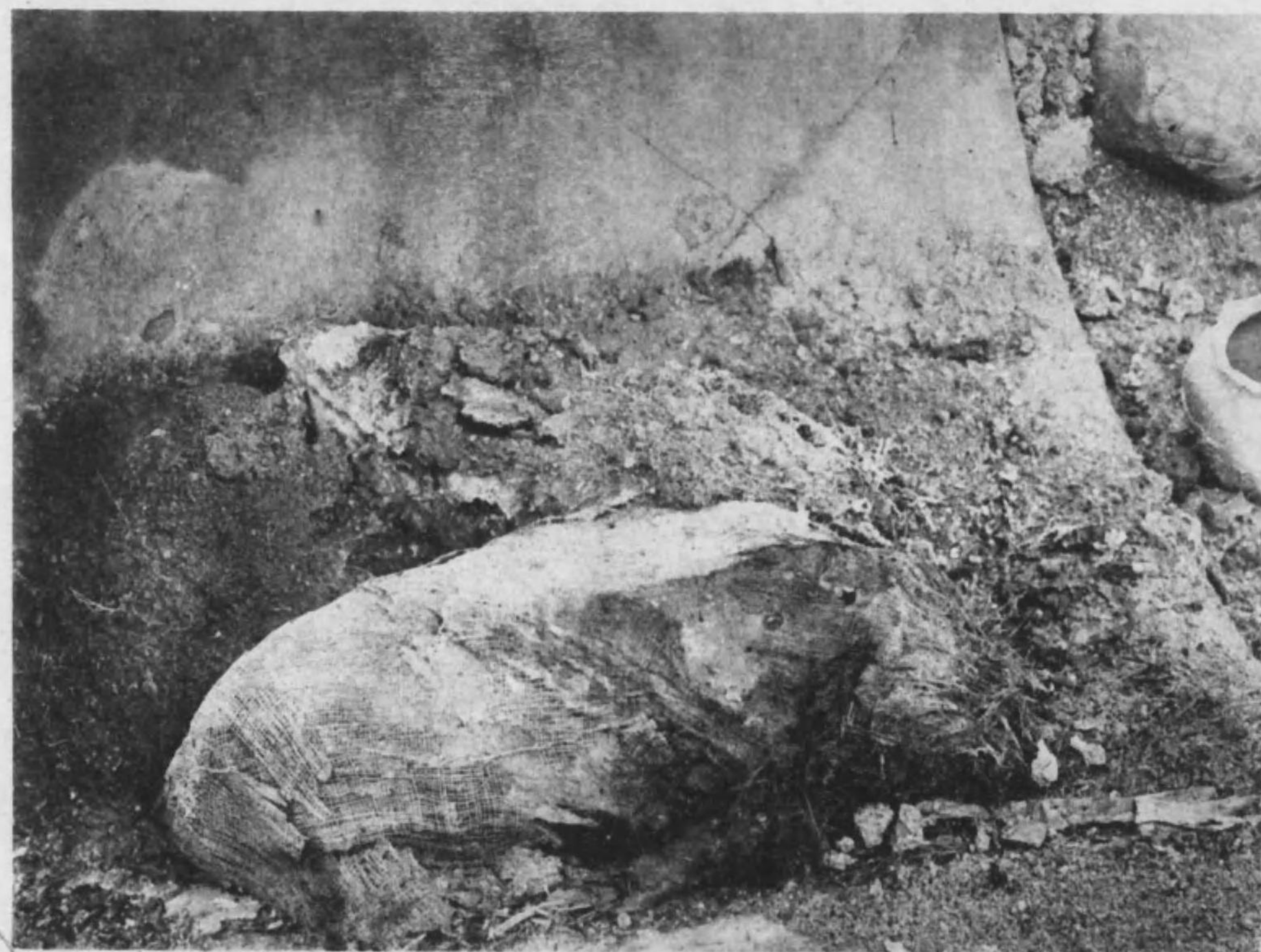
器

(藏氏助之長崎西)



第九集

(5) 墳古九第里村新面南潘州羅鮮朝



百獸壺

(東京帝國博物館藏)



支那天山第十窟西壁本尊



支那發掘土偶

(工學博士關野貞氏來品)



支那卓發掘壁畫殘片



支那卓發掘裂



特279
14

大正九年十一月廿日印刷
大正九年十一月廿五日發行

不許
複製

編輯者

東京市下谷區上野町八十八番地
會

代表者

東京市下谷區上野町八十八番地
高橋健白

印刷者

東京市本郷區駒込區分町九十番地
大塚

印刷所

東京市下谷區入谷町二十三番地
古堂

發賣所

東京市本郷區龜町三十四番地
聚精堂

終

